

他科の先生に
知って欲しい

豆知識・・・産婦人科編②

月経にまつわる症状

岡山県医師会産婦人科部会 下屋 浩一郎
川崎医科大学産婦人科学1

受診に来られた女性患者の月経歴について問診されていますでしょうか？「女性を見たら妊娠を疑え」と昔から言われているように、医療面接の現場で女性の月経歴の聴取は必須事項とされています。妊娠の有無を確認する目的で最終月経についてお聞き頂くと共に月経に伴う症状、とくに過多月経と月経痛について確認して頂いて患者様にアドバイス頂けると患者のQOLを劇的に改善する可能性があります。昔は、若い女性の月経痛の多くは機能性月経困難症として鎮痛薬の投与で経過観察をされていることが多かったのですが、最近では若年女性でも子宮内膜症の患者が少なくないことや月経痛を有する女性がその後子宮内膜症を発症して不妊に至ることが少なくないことから、積極的に低用量ピルで治療する方が良いと考えられるようになってきました。特に学校生活や就業に支障をきたすようでしたら是非婦人科受診をお勧め頂ければと思います。また、30代から40代での月経困難症に対しても低用量ピル以外にも様々なホルモン療法を用いることによってQOLの改善を図ることが可能です。

過多月経も月経にまつわる症状として頻度の多いものです。貧血の原因となるだけでなく、背景に子宮筋腫をはじめとした様々な婦人科疾患が隠れていることがあります。性成熟期女性の貧血の原因の大きなウエイトを婦人科疾患が占めると考えられています。過多月経のある女性で産婦人科を直ちに受診される方は必ずしも多くありません。健康診断や内科受診をきっかけに貧血が見出されて、原因検索の中で婦人科疾患が見つかることも多いですので、原因不明の貧血が見つかった際には産婦人科受診をご考慮下さい。

日本は世界で最も長寿国の一つとなり、女性の平均寿命は87歳になっています。一方、女性の閉経時期はほとんど変化なく50～51歳です。第二次世界大戦前の平均寿命が50歳であることを考えると、長寿によって女性は40年ほど女性ホルモンがない生活を過ごす必要があります。女性ホルモンは、自律神経、骨、血管、皮膚、女性性器など様々な臓器・器官に作用します。とくに更年期障害は、閉経前後の女性ホルモンの急激な変化に身体が対応できないために生じる様々な症状を含みます。50歳前後の女性で原因不明の不快感に悩んでいる方がおられましたら是非、産婦人科をご紹介下さい。治療としてホルモン補充療法、漢方療法、自律神経調節薬などを組み合わせることで女性のQOLを向上させることができます。ホルモン補充療法については乳がん発生などの副作用ばかりが目立ってしまいがちですが、定期的に婦人科検診、乳がん検診や血液検査を受けて頂くことでむしろ疾病の早期発見につながります。産婦人科医の多くがQOLの高い女性の生涯を支えたいと考えていますので、是非ご紹介いただければ幸いです。